

このたびの東北関東大震災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復興されますようお祈りいたします。

私共といたしましても、復興支援活動を行ってまいりますので、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

No.0003

安心・安全に満ちた社会づくりに貢献する
「気づき」と「実践力」を身につける新資格！

トリプルアール ケ ア フィッター
防災介助士 (R R R Care-Fitter) 資格取得講座
～ 2011 年 12 月 1 日開講～

社会貢献事業の環境を創造・支援する、一般財団法人社会貢献事業財団（東京都新宿区。代表理事：畑中 稔）では、NPO法人日本ケアフィットサービス協会（サービス介助士資格認定団体）と防災関係専門家の方々の協力により、平常時にも災害時にも生かせる**防災と介助の「気づき」と「実践力」**を持つ人材育成のための資格「防災介助士」(RRR Care-Fitter)の認定と、同資格取得のための「防災介助士資格取得講座」を2011年12月1日からスタート致しました。

防災介助士 (RRR Care-Fitter) とは、いつも人々が**安心して安全に暮らせる社会づくりに**貢献する人々のための資格です。

災害に対応する防災の専門的な知識・技術を学び、高齢者・障がい者をはじめとする、すべての人々に対する「おもてなしの心」と「介助技術」を体験学習することで、他者や社会・自然環境などと共生する能力を身につけます。平常時のみならず災害時を含めた多様な場面で活躍できる、企業やコミュニティのリーダーの育成に大いに役立つ資格です。



【防災介助士 (RRR Care-Fitter) の基本理念】

- 第1項 災害時のみならず日常的に心がける防災の知識と技術を習得し、社会貢献に寄与すること。
- 第2項 高齢者・障がい者のみならずすべての人々との共生とQOL(生活の質)を意識できるおもてなしの心と介助技術を習得し、社会貢献に寄与すること。
- 第3項 社会の変化に対して、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に問題解決のための行動ができる人となり、共育的リーダーシップを発揮し、社会貢献に寄与すること。

《本件に関するお問い合わせ先》

一般財団法人 社会貢献事業財団 防災介助士推進事業局

所在地：〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町5番地8

フリーコール：0800-888-3740 FAX：03-3513-0967

E-MAIL：contact@fsoco.org URL：http://www.fsoco.org

■ □ ■ 防災介助士 (RRR Care-Fitter) 資格取得講座の特色 ■ □ ■

人まかせにしない主体的な防災意識と
すべての人々との共生を目指します。

1. 「防災」と「介助」を総合的に学べるテキスト・映像教材を使用し、専門性の高い知識を身につけます。
2. 日常生活では経験することのできない「気づき」を導き、社会の変化に対して自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に問題解決のための行動ができるようになります。
3. 自分の命、家族の命、地域や組織の安全を守る、すなわち社会貢献を意識した活動ができるようになります。

* * * * *

Rescue ～救助～

Recovery ～復旧～

Relief ～安心～

※RRR Care-Fitter（トリプルアールケアフィッター）とは、防災サイクルの各場面で防災介助士が使命とする Rescue（救出）、Recovery（復旧）、Relief（安心）の意味を表します。

■ □ ■ 防災介助士 (RRR Care-Fitter) 資格取得講座の概要 ■ □ ■

《受講期間》

お申し込みから最長 12 か月以内です（原則課題提出 6 か月以内、延長制度あり）。

《学習内容》

「防災編」「介助編」の 2 種類のテキストと映像教材（DVD）による自宅学習を行い、課題を提出します。課題合格後に 2 日間の実技教習を受講し、検定試験を受験します。

※別途、社会貢献事業財団資格審査・基準委員会の審査基準による、実技教習の免除規程があります。

※一定の運動量を伴うカリキュラムがありますので、健康状態に不安のある方はお申し込み前にご相談ください。（妊娠中の方は受講できません）

《受講料》 標準コース 57,750 円（税込）

※上記金額には講座料の他、試験料・認定料・登録料も含まれます。

※防災介助士資格の登録有効期間は 3 年間です。有効期間内に所定の資格更新手続きをすませてください（更新料は 3,150 円です）。

※実技教習免除の各コースの講座受講料金は 5 ページの「受講の流れ」をご参照ください。

※実技教習免除の対象資格は 6 ページの「実技教習免除の対象資格」をご参照ください。

《防災介助士認定証》

検定試験合格者は防災介助士の登録申請をします。申請には、消防署、日本赤十字社などが主催する救急救命講習を受講した「救命技能認定証」が必要です。登録後に認定証が授与されます。

（救急救命講習は、各実施機関に直接申し込んで別途受講してください。教材費が有料の場合があります。）

○ テキストの主な内容 ○

【防災編】	【介助編】
第1部 防災介助士の基本理念と社会的必要性 第1章 防災介助士の基本理念 第2章 防災介助士の社会的必要性	第1部 防災介助士の基本理念と社会的必要性 第1章 防災介助士の基本理念 第2章 防災介助士の社会的必要性 第3章 ジェロントロジー(創齡学)の必要性
第2部 防災介助士に必要な防災の視点 第1章 防災における地域コミュニティの重要性 第2章 災害伝承や地名由来を知る 第3章 「自助・共助・公助」の概念 第4章 避難行動の原理 第5章 災害時要援護者対策 第6章 災害ボランティア活動の重要性	第2部 防災介助士に必要な介助の視点 第1章 ホスピタリティ・マインド 第2章 ノーマライゼーションと障害 第3章 防災介助士の接遇 第4章 高齢者疑似体験の必要性
第3部 災害事象の理解と対応 第1章 防災サイクルの確立と災害対応情報 第2章 地震災害 第3章 津波災害 第4章 火山とその関連災害 第5章 風水害と土砂災害 第6章 都市災害と火災 第7章 新興感染症 第8章 ヒューマンエラー(人為ミス)による大規模事故 第9章 原子力災害と放射線被害 第10章 テロ災害	第3部 平常時における要援護者への理解と介助 第1章 車いす使用者への介助方法 第2章 聴覚障がい者への介助方法 第3章 視覚障がい者への介助方法 第4章 知的障がい者への介助方法 第5章 精神障がい者への介助方法 第6章 高齢者への理解と介助 第7章 障がい者や要援護者の自立支援
第4部 災害時に即応する防災技術 第1章 緊急時に備える防災態勢 第2章 被害軽減に貢献する防災・介助 第3章 復旧・復興のシステム	第4部 関連法規・制度 第1章 介助における関連法規 第2章 介助における関連制度 補助資料(いろいろなマーク)
第5部 関連法規・制度 第1章 主な災害関連法規・制度 第2章 主な災害関連図記号(標識)	

○ 映像教材(DVD)の特徴 ○

「防災サイクル」(右図)にそって、災害の代表例である地震を事例として、災害発生から応急対応、復旧・復興、災害予防対策までの一連の流れを学べる構成になっています。
 また、津波、風水害、土砂災害、火災、新興感染症等の災害の概要、メカニズム、注意点等、映像や図解等を使用して学習します。



▲DVDパッケージ



▲防災サイクルの図

○ 実技教習カリキュラム（一般受講） ○

～防災編～

実技教習カリキュラム（一般受講：2日コース）

1日目		2日目
オリエンテーション	9:30	
ホスピタリティ・マインド ノーマライゼーション	10:00	災害の理解
高齢者のイメージ	11:00	あなたの防災力
高齢者疑似体験 (昼食時間含む)	12:00	地震疑似体験 傷病者の搬送方法 ロープワーク
感想発表	13:00	休憩
ジェロントロジー、介助の心構え		
接遇	14:00	これからできる防災
車いす使用者への介助	15:00	コミュニティでできる防災 (グループワーク)
	16:00	
視覚障がい者への介助		ロールプレイ
	17:00	
聴覚障がい者への介助		筆記検定試験
障がい者への自立支援	18:00	

※社会貢献事業財団資格審査・基準委員会の審査基準により、学習内容の一部免除をされた方（サービス介助士2級資格取得者など）向けの1日コースもあります。



搬送技術



グループワーク



ロープワーク

～介助編～



手引き



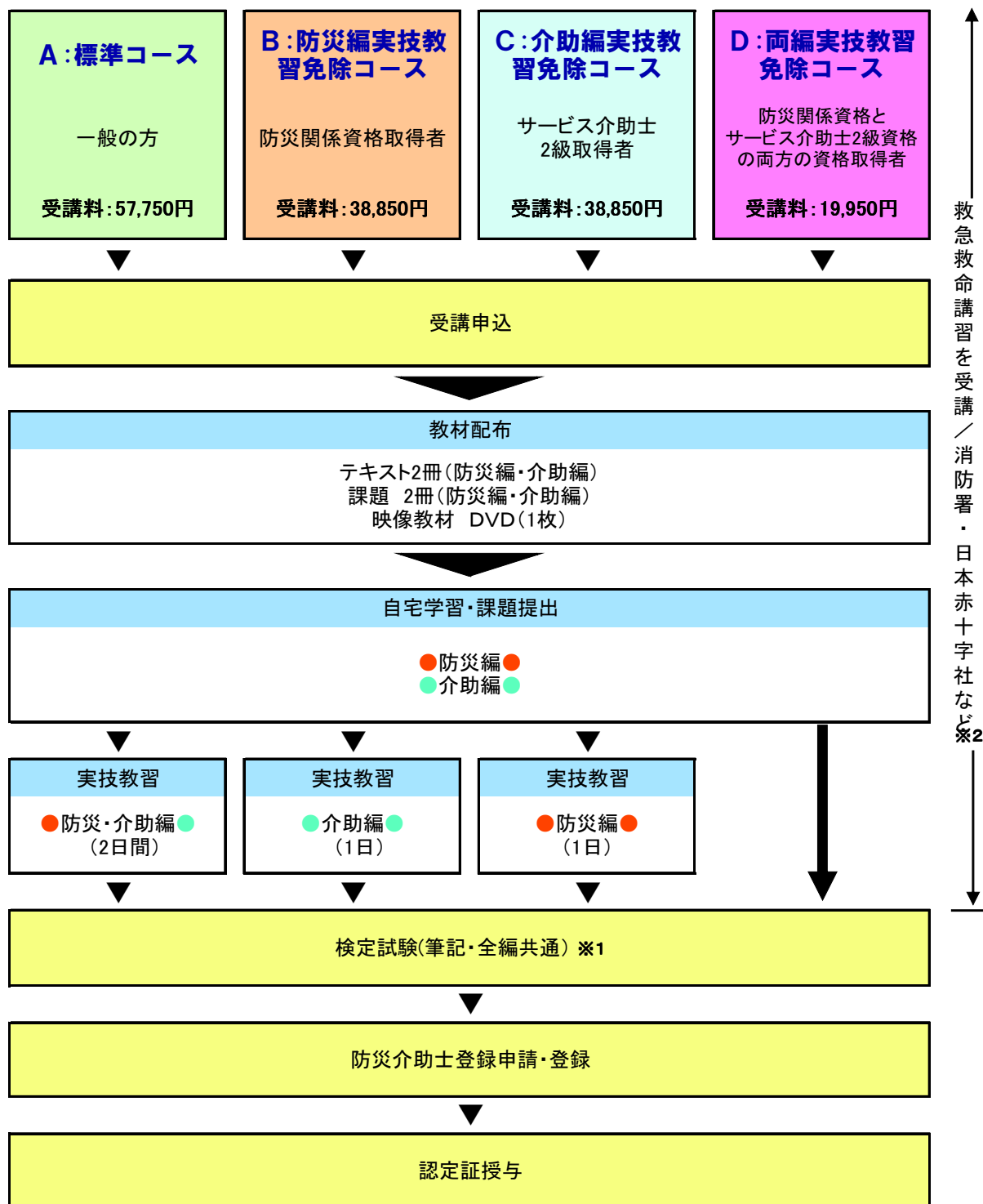
高齢者疑似体験



車いす操作

※写真は、実技教習内容の一部です。

□□□□□□□□ 受講の流れ □□□□□□□□



※1 両編実技教習免除コースの方は、実技教習の受講は免除されますが、登録申請するには、介助編・防災編の両方の内容を含む検定試験に合格する必要があります。また、不合格の場合は再受験可能です。

※2 原則として、救急救命講習は検定試験受験前までに受講してください。ただし、やむを得ない事由により受講できない場合は防災介助士推進事業局までご相談ください。

《実技教習免除の対象資格》

〈「介助編」実技教習の免除規定が適用される資格〉

○サービス介助士 2 級

〈「防災編」実技教習の免除規定が適用される資格〉

- ① 自衛隊法に規定する自衛官
- ② 自衛隊法に規定する即応予備自衛官
- ③ 自衛隊法に規定する予備自衛官
- ④ 警察法に規定する警察官
- ⑤ 消防組織法に規定する消防吏員
- ⑥ 消防組織法に規定する消防団員
- ⑦ 海上保安庁設置法に規定する海上保安官
- ⑧ ①～⑦の職に 5 年以上あった者の内、退職後 5 年以内の者
- ⑨ 東京消防庁が実施する災害時支援ボランティア リーダー講習修了者
- ⑩ 日本防災士機構が認定する防災士
- ⑪ 日本赤十字社が認定する救急法救急員

〈「介助編」および「防災編」両編実技教習の免除規定が適用される資格〉

「介助編」と「防災編」の両方の実技教習免除規定が適用される資格を持っている場合

※ 課題提出と検定試験はあります。

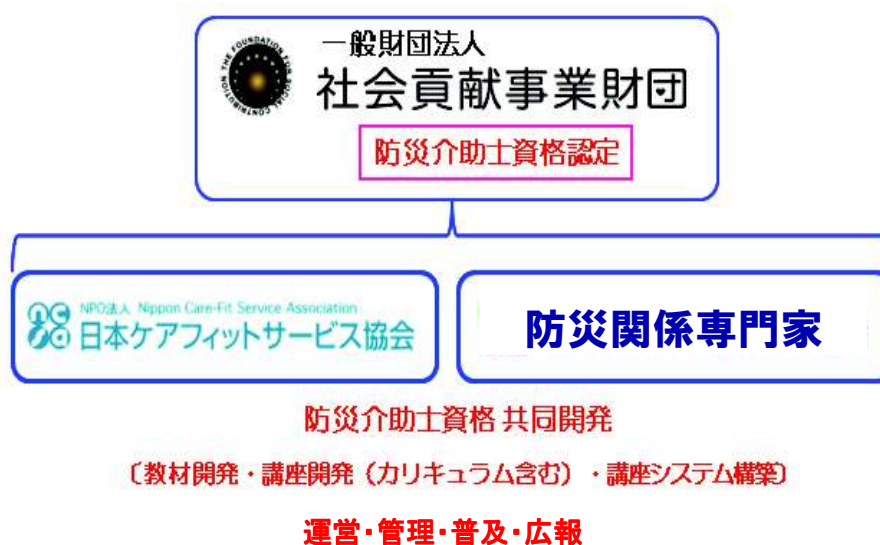
□■ 防災介助士（RRR Care-Fitter）シンボルマーク ■□



Rescue（救出）、Recovery（復旧）、Relief（安心）の3つの「R」ががっちり繋がり、いつも人々が安心して暮らせる社会づくりに貢献・活動する防災介助士をイメージしデザインしました。さらに、社会貢献事業財団ロゴマークにある南極点からの太陽の軌跡「沈まない太陽」を入れ込み、財団の理念と融合させたシンボルマークに仕上げました。

このマークは、防災介助士（RRR Care-Fitter）を広く認知させることと共に、防災介助士（RRR Care-Fitter）のステータス性の向上と資格取得者のモチベーションの向上を目的として、防災介助士（RRR Care-Fitter）を象徴するシンボルマークです。

□ ■ ■ □ ■ ■ □ ■ ■ 防災介助士 開発組織図 ■ ■ □ ■ ■ □ ■ ■ □



■ □ (防災介助士 資格認定団体) 一般財団法人 社会貢献事業財団 ■ □



一般財団法人社会貢献事業財団は、社会貢献事業環境の創造・支援を目的に、2010年11月に設立されました。共育、文化、学術振興、災害支援、国土開発または保全、防災、環境、資源、エネルギー、社会福祉、及び社会貢献に関する研究ならびに事業への支援を通じ、世界における社会貢献事業環境を整えることを目的として活動しています。

● 事業内容 ●

- (1) 共育、文化、芸術に関する優れた研究及び事業業績に対する各種の賞の授与
- (2) ジェロントロジー国際会議の開催及び企画運営
- (3) 社会貢献事業としての新業態の確立と認知の向上及び普及活動
- (4) 社会貢献、社会福祉に関する国内外情報収集、調査、広報及び宣伝活動
- (5) 社会貢献事業に関する研究への助成
- (6) 海外諸国、主として発展途上国における当法人が掲げる事業に対する助成
- (7) 奨学金制度に関する助成
- (8) 検定資格の企画開発、認定及び講座の運営
- (9) 福祉施設及び医療施設の運営管理
- (10) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

【ケアフィットファクトリー構想の推進】

「ケアフィットファクトリー」とは、医療、福祉、共育、科学、芸術、スポーツ施設等が備えられた環境で、高齢者や障がい者、子どもたちなど、あらゆる人が共に働き、学び、生活する場を創造することを目的とし、社会貢献事業財団ではこれを推進しています。

《循環型社会プロジェクト》

循環型社会プロジェクトとは、循環型社会をマクロ的に捉え、経済全体の活性化を図る取り組みです。

廃棄物を資源に再生することはもとより、労働力や生産性まで視野に入れた新しい価値を創造していきます。

現在、第一次産業に着目し、新しい技術を取り入れた安心・安全・安定の食物づくりを支援しています。また、食物残渣や食品廃棄物などのゴミを出さずに再利用するエコフーズシステムを取り入れた循環型社会を実現していきます。

《防災介助士》（2011年12月1日開講）

NPO法人日本ケアフィットサービス協会と防災関係専門家の知恵が統合された資格で、社会貢献事業財団が認定します。

《ジェロントロジー国際総合会議》

NCSAジェロントロジーセンターとともにジェロントロジー※（創齡学）の啓発活動、ならびに研究活動の発表の場として、世界各地でシンポジウムを開催しています。

※ジェロントロジー：Gerontology。創齡学。一人ひとりが生まれてから死ぬまでの人生を健康に過ごし、より生活の質を高め、齢（よわい）を素敵に創り上げていくための学び。

◆ロシアサンクトペテルブルグジェロントロジー国際総合会議 2011

（2011年4月11～13日開催）

◆ダ・ヴィンチ・気がつくプロジェクト 2012

（2012年4月14日～開催予定） 日本国内にて開催予定

テーマ：教育から共育へ：若さは賜であり老いは芸術である



《震災復興支援活動》

この度の東北関東大震災による被害に対する支援のため、社会貢献事業財団をはじめとするケアフィットグループでは、主に高齢の方や障がいのある方々への支援活動を行っています。

震災復興支援活動サイト：<http://www.shakaikoukencfg.jp>

【ケアフィットファクトリー構想図】



各組織と事業のコーディネートと
ネットワーク化を図ります

(防災介助士 資格開発団体－１)

■□ 内閣府認証 NPO法人 日本ケアフィットサービス協会 □■



社会貢献事業財団が所属するケアフィットグループの中核を担う日本ケアフィットサービス協会は、介護保険制度の実施に伴い、「高齢者を寝たきりにさせない！」をテーマに、一人ひとりにフィットしたサービス介助技術の普及と共育を図ることによって、高齢者のみならず障がい者や子どもたちも安心して街に出かけられる、社会的・心理的環境づくりを目的として、1999年に設立されました。

超高齢社会に突入した日本の社会の現状をふまえ、年齢や障がいがあるなしにかかわらず、誰もが心豊かに暮らせる社会環境づくりをめざして、共育、広報、社会貢献活動などを幅広く展開しています。

また、このたびの社会貢献事業財団が実施する防災介助士資格取得講座のカリキュラムには、サービス介助士の学びも取り入れられています。



《サービス介助士検定取得講座》

サービス介助士は、「おもてなしの心」と「介助技術」を身につける資格です。街の中で、サービス業の現場において手伝いを必要としている方に温かな心と適切な介助技術で対応できるスペシャリストです。

サービス介助士は交通旅客、流通、宿泊、金融などのサービス業や公共施設（役所、学校など）をはじめとする様々な職場で活躍しており、サービス介助の学びは約700法人で導入されています。また、職場だけでなく、ボランティアや普段の生活の中でも学んだことを活かして様々な人への手伝いをしています。

【サービス介助士取得者数】

(2011年11月1日現在)

級	取得者数
2級	82,303人
準2級	3,793人
3級	358人

○サービス介助士2級の学習内容（概要）○

人それぞれの違いを認識し、「百人百様の介助」を心がけることが基本となります。高齢者疑似体験、車いす操作、視覚障がい者のお手伝い練習などの実技を学び、ロールプレイで応用力を身につけます。

〔サービス介助士2級実技教習風景〕 ※実習内容の一部です



高齢者疑似体験



車いす操作



視覚障がい者への案内

2級以外にも、通信講座のみで取得できるサービス介助士準2級、中高生対象のサービス介助士3級（ジュニア・ケアフィッター）があります。また、上級資格として「サービス介助士1級」「サービス介助士準1級」などの開発を進めています。

《海外へ広がるケアフィットの学び》

日本ケアフィットサービス協会は、アメリカ合衆国、インド、台湾に支部を持っています。また中国、韓国などへのネットワークを構築中です。

台湾では2008年からサービス介助士（安心サービス介助士）の資格検定がスタートしています。インドでは、特に貧困層への様々な福祉活動を基軸とした共育プログラムが進行しています。またアンドラ大学では、NCSAジェロントロジーセンターとともに、世界規模でジェロントロジー（創齡学）の研究、普及に努めています。

《社会貢献ネットワーク》

急増するサービス介助士有資格者が、その豊かな経験と知識をもって活動することにより生まれる心豊かな共生社会。それこそがケアフィットグループが目指す理想の社会です。

その構築のために、有資格者の活動を組織として支える「ケアフィットソサエティ倶楽部」、また有資格者がそれぞれの才能をもって社会に貢献する「ケアフィットマイスター制度」の運営を行っています。

老若男女、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人々の心をつなぎ、幸せを追求できる、ケアフィットソサエティの構築を目指して活動中です。

〔ケアフィットソサエティ倶楽部活動風景〕



介助ボランティア活動



スポーツ交流（デフサッカー）



各種勉強会（点字勉強会）

（防災介助士 資格開発協力者－2）

■□ 防災関係専門家 □■

防災介助士資格は、防災分野に知見のある多数の専門家に御協力をいただき、開発致しました。防災関係専門家のアドバイスによる最先端の情報と、多様な実績や事例にもとづく充実した学習内容となっております。

《防災介助士 お問い合わせ先》



一般財団法人

社会貢献事業財団

防災介助士推進事業局

所在地：〒162-0846

東京都新宿区市谷左内町 5 番地 8

フリーコール：0800-888-3740

FAX：03-3513-0967

メール：contact@fsoco.org

URL：http://www.fsoco.org

★★★★★★ 社会貢献事業財団シンボルマーク ★★★★★★



高校の教師でもありながら気象予報士で天体の写真家としても活躍している武田康男氏が、南極点から捉えた一枚の写真がイメージを与えてくれました。

南極点から太陽の軌跡を定点カメラで撮ると、マークの星のような軌道を取り、太陽が沈むことなく見える現象だそうです。

「沈まない太陽」⇒「社会貢献事業財団はいかなる難局にぶつかっても沈むことのないこと」を祈念し、未来永劫不沈の財団として世に寄与することをイメージしてデザインされました。

★★

発行日：2011 年 12 月 1 日

発行名：一般財団法人社会貢献事業財団

プレスリリース No. 3